

基礎データ

- 【人口】6,917人(H20.9.30現在)
- 【世帯】2,850世帯(H20.9.30現在)
- 【面積】約2,267ha
- 【公共施設】北部保育園・山北保育園・童浦小学校
・緑が浜公園・白谷海浜公園・シェルマよしご
・エコパーク・蔵王山展望台・姫島漁港
- 【史跡】吉胡貝塚
- 【主な産業】工業(臨海工業地帯)・農業・漁業



童浦

校区自己紹介

ひめしま
姫島



校区の特色

童浦校区は田原市の北東部に位置し、周囲を臨海工業地帯や三河湾、汐川干潟などに囲まれており、市内では比較的独立した地理条件にある。また、三河港大橋により豊橋方面と結ばれ、田原市全体の玄関口ともなっている。

自然環境の恵みにより、半農半漁が中心の地域であったが、臨海工業地帯への企業進出により、住宅開発や区画整理などが進み、環境が大きく変わっている。専業農家が減り、勤労者世帯が増え、校区内の11地区のうち6地区が近年新たに加わり、人口比率でも半数を超えるなど、市内で最も変貌を遂げた地域といえる。また、人口・世帯数・児童数とも、田原市最大の校区である。

ふれあい活動行事

「市民館まつり」をはじめとして、「防災・防犯フェア」「納涼夏まつり(盆おどり)」「だでのん笠山まつり(童浦小学校)」「童浦校区スポーツ大会(ミニバレー、タスポニー、ドッジビー、ゲートボール)」「童浦小学校茶園事業(健全育成会・PTA)」などを行っている。

長い歴史を持つ茶園事業



童浦小学校の茶園

童浦小学校の茶園事業は、長い歴史と地域伝統産業に培われた特色ある事業で、戦時中の昭和18年、蔵王山麓北側の開墾を起源とする。

平成17年度には、お茶の木の老木化に伴い、茶園再生事業委員会を立ち上げ、校区住民から再生事業基金の募金活動を行い、平成18年3月に、卒業生と保護者、健全育成会、PTA役員など多くの人たちの手により3000本の苗木を

植樹した。その後の育成管理作業は、学校の体験学習や、校区関係団体・組織の協力により続けられ、今年の4月には、新茶の初摘みを「若葉集会」として行うことができた。

この茶園事業の活動を通じ、児童と保護者が一緒に自然と農業に親しむ機会をつくるとともに、学校と地域とのふれあいの場となるよう努めている。

校区の新しい顔

縄文時代の貝塚で国指定史跡でもある吉胡貝塚に、平成19年、史跡公園が開設された。発掘資料が展示されている資料館では、模型、写真などで縄文人の暮らしを分かりやすく学ぶことができるほか、2階には体験学習室もある。



シェルマよしご

また、外の公園では広々とした丘をゆったり散策でき、来訪者の憩いの場となっている。

(文:童浦校区)



かさやま
笠山